

令和元年度 伊万里市立大坪小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
互いに認め合い、伝え合い、 つなげる学校にしよう ～自己肯定感を高める 教育を通して～	① 支持的風土の学年・学級経営の促進 ② 組織での指導体制の強化 ③ 教職員の資質向上(授業力・学級経営力・服务意识・組織力等)の促進 ④ 保護者・地域との連携(情報発信と相互の活用) ⑤ 学習指導要領に即した教育課程の改善(年間指導計画の見直し) ⑥ 学校予算の効率的活用(学校事務共同実施及び施設設備の充実・改善)

達成度
A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価							
① 支持的風土の学年・学級経営の促進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳教育の充実 ○心の教育3点セットの活用	・体験活動を生かした心に響く実践を行う。	・「いのちの教育指導資料」や「伊万里っ子ぐさ」、「童謡歌集」を生かした授業を全学級で実践し、ボランティア活動や心を育む「家読」を充実させる。	B	放送委員が伊万里っ子ぐさを毎日、ふるさとの童謡を定期的に放送した。いのちの教育資料を活用した授業も多くの学級で実践できた。	ふれあい道徳における各学級の公開授業を更に充実させ、今後も一層心の教育に取り組んでいく。家読の充実も育友会と連携して進める。
		人権・同和教育の充実	・授業内容の充実を図り、人権感覚の育成を図る。	・日常生活の問題等から教材を開発・工夫し、授業実践を行う。	B	職員用図書コーナーを有効活用し、人権教室等に生かすことができた。	次年度は部落問題学習に取り組む、さらなる充実を目指す。
		教育相談の充実	・保護者面談の他、医師、カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健師、民生委員等関係機関との連携に努める。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部機関の効果的な活用など、教育相談機能の充実を図る。	A	通信や担任等からの紹介を積極的に行い、多くの人をSCにつなげ、困り感の緩和や解決につなげることができた。	急を要する場合の教育相談がスムーズに行えないことがあるので、SCや他校、医療機関との協力体制を強めたい。
教育活動	●志を高める教育	○夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・教育活動を通じて、児童が目標をもって実践し、振り返りを行うことで自分の成長を感じることができるような機会を設ける。	・学校行事(体育大会や修学旅行等)や対外行事(相撲大会や陸上運動大会等)、発表会(伊万里秋祭りや公民館祭り等)などを通じて、個人で目標をもたせ、それをバックアップすることで成功体験を積ませる。	B	行事等に取り組む際、目標設定と反省を繰り返しながら、多くの児童に成功体験を積ませることができた。全児童が書いた目標を掲示することで切磋琢磨の雰囲気醸成することもできた。	自己肯定感が高まり、将来を前向きに考えられるよう、日常の学習活動や係・当番・委員会活動等を工夫し、キャリアパスポート等を活用しながら、自分の成長を自身に感じ取らせる。
教育活動	●○いじめ・不登校への対応	いじめ・不登校をなくす風土づくり いじめ・不登校に対応する体制づくり	・アンケートの実施や日常の観察等から、いじめの早期発見に努め、いじめ防止、不登校傾向、問題を抱える子への組織的な支援の充実を図る。	・毎月「心のアンケート」を実施し、早期発見に努める。 ・保護者、担任、生徒指導主任、教育相談担当、級外などの連携を密にし、組織としての支援を充実させる。 ・学校いじめ対策委員会において、支援の具体的方法について話し合う。	B	心のアンケートを実施したことで児童の様々な声をキャッチし、状況把握や早期対応を行うことができた。不登校傾向児童については、担任や関係する職員等が連絡・訪問等を行っており、対応に努めることができた。	今後もアンケートを実施し、いじめ等の早期発見に努める。気になる事案は、連絡会で共通理解するなどチームで対応し、保護者への連絡も密にしていく。いじめの未然防止のため支持的風土の醸成にも努める。
教育活動	特別支援教育	特別支援教育の推進	・児童の実態に即した具体的な支援の内容・在り方を探る。	・ケース会議で児童の実態を把握し、対応について協議・共通理解をする。 ・学校全体の支援体制を整備する。 ・校内支援委員会の定例開催により、児童の現状を確認し、支援の方法を考え実践する。	B	児童の実態に即した支援を行うため、積極的なケース会議開催や転入前の学校に赴く等、対応に努めることができた。また、毎週の連絡会で気になる児童を出し合い、児童の現状を共通理解できた。	個別の指導計画や支援体制のあり方等を見直し、更なる充実を図る。また、外部機関と連携し、多面的に支援できる体制を構築する。保護者との連携も密にし、問題点や困り感を共有しながらより良い支援を行う。
② 組織での指導体制の強化							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	学校経営方針	学校教育目標、本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知し、認知度を高める。	・多様な機会(職員会議、集会、保護者会、学校便り、学級便り等)を利用し、周知する。	B	育友会総会や育友会実行委員会、地域の会合等で大坪小の教育活動についてお伝えできた。	ホームページ更新に努め、安心メールの効果的な活用を行い、本校の教育活動を広く知らせる。
学校運営	○危機管理	○通学路の安全点検及び安全指導	・通学路の点検や休日前の生活指導の充実を図る。	・毎月20日の安全点検と、学期ごとに通学路の安全点検を実施する。 ・通学路については、保護者や地域の方にも危険箇所の確認をお願いし、危険箇所マップの改訂を行う。	B	学校設備の安全点検を確実に実施することはできたが、改修はなかなか進まなかった。市役所職員や地域の方と通学路点検を行い、危険箇所を洗い出すことができた。	安全点検は今後も確実にを行い、特に経年劣化に注意する。各地区担当者による通学路点検を確実に行う。また、公民館や区長さん、警察や市役所とも連携する。

学校運営	○危機管理	○食物アレルギー等への対応	・食物アレルギー対応が必要な児童の情報を職員全員が共有し、学校全体で組織的に対応する。	・食物アレルギーのある児童の一覧表を作成し、確実な把握とそれぞれの対応や薬の所在の共通理解を図る。 ・担任が不在でも適切に対応できるように、必ずアレルギーの情報を補欠者が確認する。	A	年度当初、配慮が必要な児童の確認をした。また、夏休みに緊急時対応の研修を行った。献立表が届いた時点で配慮が必要か判断し、担任が不在の場合は補欠計画表に必ず配慮児童を記入した。	今後も危機感を持って児童対応する。アレルギーについて、更に理解を深める。エピペン練習具を使った研修を行い、職員のスキルを高める。食物アレルギーをもつ児童には管理票を100%提出してもらう。
③ 教職員の資質向上(授業力・学級経営力・サービス意識・組織力等)の促進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	教職員の資質の向上	授業実践の向上	・校内研修を中心に、指導技術と授業づくりの力量を高める。	・校内研テーマに沿った授業実践や西部型授業の取組などを通して授業改善に努める。 ・研究授業と事後研を活性化させ、校内研究を核とした職員集団づくりを行う。	B	授業研究会(公開授業含む)を行い、各自が授業改善に努めることができた。思考力・判断力・表現力の伸長を目指した研究を職員が一丸となって進めることができた。	研究主任を中心に、児童につけさせたい力は何かを考え、今後も課題を明確にしながら授業改善に努める。引き続き、学級経営力の向上にも努めていく。
教育活動	●学力の向上	○授業と家庭学習とのつながり	・毎日の家庭学習時間を確保させる。 ・「家勉」を推進する。 ・家庭学習調査を実施し、安定して家庭学習に取り組む児童を80%以上にする。	・家庭学習調査の集計の結果を個別指導に生かす。また、保護者と連携し、安定して家庭学習ができる環境をつくっていく。 ・「家勉」を奨励し、自主学習の習慣を定着させる。	B	家庭学習の手引きを配付したり、家勉コーナーを設置したりしながら、家勉の取組を推進することができた。今後は内容の充実や児童の興味・関心の向上を図る。	家庭学習のさらなる充実を図るためには、保護者との協力体制が欠かせない。取組や意識の個人差を埋め、内容を充実させるために理解と協力を促していく。
		○ICT利活用教育の推進	・パソコンや電子黒板等の機器を活用した授業力の向上に努める。 ・ICT機器を利活用した授業を計画的に実施する。	・職員研修会を行い、ICT利活用授業について研鑽できる機会とする。 ・電子黒板で活用する教材の充実を図り、日常的に活用できるようにする。	B	デジタル教科書の性能向上や教室LAN整備に伴い、授業実践にICTが活発に取り入れられるようになり、教員のスキルも向上できた。	情報化推進リーダーを中心に有効なICT利活用法(プログラミング含む)について研修を重ね、皆が日常的に使えるようにする。
		基礎学力の向上	・国語・算数の基礎的な学力を向上させる。 ・学習指導要領や教材に関する研究を積極的に行い、活用力向上と言語活動の充実を目指した授業を展開する。	・「学習のきまり」を活用し、学習習慣の確立を目指す。 ・大坪チャレンジ、思考力テスト、ICT利活用を通して、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。 ・校内研等で活用力や言語活動に関する指導方法の検討を行い、授業実践に生かす。	B	活用力向上指定最終年度ということもあり、足並みを揃えて授業実践や様々な学習活動に取り組み、12月に行われた県の学習状況調査の活用力の観点では県平均を上回るなど、学力の底上げを図ることができた。	指定は終わるが、これまでの取組の財産(学習過程・大坪チャレンジ・家勉・学びの手引き等)を改善・継承しながら、学力向上にこれからも取り組んでいく。また良い学習習慣を他教科にも生かせるよう、授業実戦に臨む。
④ 保護者・地域との連携(情報発信と相互の活用)							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	開かれた学校づくり	学校情報の公開	・学校便り、HP、学校安心メール等による学校情報の公開と内容の充実を図る。 ・各種行事等への保護者の参加率を昨年度より高める。	・定期的に学校便りを発行する。また、定期的にHPを更新したり、学校安心メールで情報発信したりする。 ・行事等に関する案内状を早期に配付し、保護者の予定が立てやすいように配慮する。 ・「学校安心メール」への保護者登録率95%以上をめざす。	B	学校便りは定期的に、その時期に合った内容・情報を保護者に提供できた。しかし、ホームページの更新が十分にできなかった。行事については、案内状の配付と併せてメールによる案内も行った。学校安心メールへの登録率は100%を達成した。	ホームページの運営について、今後は定期的な更新を心がけ、地域のニーズに応えていく。学校安心メールは次年度も100%がキープできるよう、新1年生に登録を呼びかける。併せて、保護者の行事への参加率も上げていく工夫をする。
教育活動	○特色ある学校づくり	ふるさと学習の地域定着	・校区内や周辺に存在する社会教育施設や優れた教育資源を活用し、児童のふるさと学習の機会拡大を図る。	・図書館を使った「調べる学習コンクール」へ積極的に参加する。 ・地域の偉人から学び、行動する「森永エンゼルクラブ」の活動を充実させる。 ・地域への関心を高める、魅力ある事業を企画する。	A	どの学年も市民図書館を積極的に利用し、調べる学習コンクールに多くの児童が応募できた。郷土の歴史や祭り、特産物等について学び、子どもたちに地域を知り、地域を愛する心が芽生えた。	調べる学習コンクールへの参加と市民図書館の積極的利活用を、これからも続けていく。また、森永エンゼルクラブや伊万里秋祭り等の学習も、本校の特色として継続して取り組んでいく。
		地域や保護者とともにある学校の創造	・関係機関の指導や協力のもと、自助・共助の精神で教育環境の充実に努める。	・保護者・職員・児童の意見を反映させながら、魅力ある図書館経営に取り組む。	A	まちづくり運営協議会の御支援を頂き、図書館の充実を図ることができた。	図書の入れ替えを行いながら、教育のニーズに合った環境を整える。
		鼓笛隊・校歌等の取組の充実	・誇りを持って鼓笛隊の練習に参加する児童を育成する。 ・校歌に愛着を持ち大切にするとともに、童謡に親しむ学校をめざす。	・「心をついに」を合い言葉に練習に取り組ませる。 ・明るく伸びやかに校歌を歌うことができるようにする。 ・童謡・唱歌を歌わせ、曲に親しませる。	B	常に関係職員と連携を取り、協力して指導できた。児童も伝統の大切さを感じながら、愛校心をもち、心をついに練習に取り組んだ。	鼓笛隊は本校の伝統であり、引き継ぐことで高学年としての自覚が生まれる。今後もこの伝統を継承したい。校歌を歌う機会を増やす。
教育活動	家庭教育力の向上	読書活動の充実(家読)	・育友会と連携して家読の推進に努める。 ・一人平均図書貸出数を昨年度比10%増を目指す。	・保護者・育友会と連携して、家読を推進するための「うちどくウィーク」を企画・実施する。	B	教養厚生委員が昨年度新調したバッグで、今年度も家読リレーに取り組んだ。ウィークの実施はできなかった。	育友会と活動を見直して、家読活動を活性化させたい。市民図書館と更に協力・連携し、読書活動を充実させたい。

⑤ 学習指導要領に即した教育課程の改善（年間指導計画の見直し）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	○食育の充実	・バランスよく栄養をとることを心がけて食べる児童を育成する。	・栄養教諭と連携し、朝ごはんの重要性や望ましいおやつ の摂り方等の指導をする。 ・給食や学級活動等を通して、偏食と食事マナーの改善を図る。	B	給食委員会が放送で栄養の話をしたり、4年生が栄養教諭と一緒に食育の学習を行ったりした。保健室前にも食バランスの大切さがわかる掲示物を貼るなどできた。	今後も学級活動や給食時間などに、食と健康について考える機会を設ける必要がある。早寝、早起き、朝ごはんの習慣をしっかり身につけさせる手だてを取る。
		体力の保持・増進 衛生習慣の定着化	・体力向上のための計画的な場づくりを工夫する。 ・手洗い、うがい、歯磨きの徹底化を図る。	・水泳、マラソン、縄跳び週間等の期間を設定して、積極的に取り組ませる。 ・給食前の手洗いやうがい、給食後の歯磨きを毎日実践させる。	B	マラソントイムやなわとび週間の設定で、体力づくりの取組ができた。給食前の手洗いや歯磨きについても、毎日しっかり実践できた。	県のスポチャレを勧め、楽しく体力向上できるよう促す。手洗いやうがい等を習慣化する。特にインフルエンザ等の流行に備えて習慣づける。
教育活動	情報モラル教育	情報モラルの指導	・情報社会でのルールやマナーの遵守を図る。	・情報の発信や情報のやりとりをする場合のルールやマナーについて、発達段階に応じて指導を行う。 ・情報モラルについての講演会を行う。	B	今年度もバザーの日に保護者対象の情報モラル講演会を行った。理解者を増やしていきたい。まだまだ保護者・児童の意識の低が見られる。	育友会と協力しながら、講師を招いて勉強会を実施し、情報社会でのルールやマナーの徹底を図る。低学年から段階的な指導に取り組む。
教育活動	外国語活動	外国語活動の推進	・高学年の外国語活動における授業展開や教材教具を工夫し、児童が生き生きと活動する授業づくりに努める。 ・ALTとの効果的な連携による授業づくりに努める。	・年間カリキュラムを作成し、ワークシートや視聴覚機器を生かした授業を実践する。 ・外国語専科教員の授業を参観し、今後の外国語教育の参考とする。 ・ALTとのTT授業展開を工夫する。	B	高学年は英語専科教員が授業を行い、質の高い学習ができた。また、その授業を参観することで担任にとってはよい研修となった。ALTとの連携については、授業前後の短い時間でしか打ち合わせができなかった。	高学年担任は、実際に授業を行っていないので、授業実践力の向上は難しかった。今後は研修と実践を繰り返しながら、力を付けていきたい。ALTと基本的な役割分担を行い、担任主導で授業計画を立てていく。

⑥ 学校予算の効率的活用（施設整備の充実・改善）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	学校予算の活用	施設・設備の充実・改善	・児童が安全・安心で快適に過ごせる環境を整えるために、予算を含めた計画を進める。	・毎月の安全点検の結果を受け、市にはたらきかけたり、学校予算を効率的に運用したりしながら、学校環境を整える。	B	毎月の安全点検はこまめに行えたが、経年劣化による環境悪化への対処は、金銭的にも難しかった。	市や育友会と連携しながら安全・安心な環境をつくることができるよう、細心の注意を払いながら対応する。

* 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策
学校運営	○幼・保・小・	幼保小連携の推進	・幼保小の交流を行い、相互理解に努める。	・職員研修に園職員を招き、園の経営方針や園児の現状等を学ぶ。 ・情報交換のための園訪問を行う。	B	職員研修を行う時期に、ウイルス流行が重なり実現できなかった。入学後に配慮が必要な園児の情報交換は行えた。	ウイルス流行期を避け、園の先生との意見交流会を開く。今後も園に出向き、情報収集と児童のよりよい対応に務める。
		小中連携の推進	・小中の情報交換会や授業交流を行い、相互理解に努める。 ・共通研究テーマのもと、伊中校区4校が連携して校内研を進める。	・情報交換会を年3回以上、交流授業を年1回以上実施する。 ・小中連絡協議会や合同校内研の機会を設け、活用力の向上に向けて研究と実践を進める。	B	伊中校区で活用力向上の研究指定を受け、生活指導・学力向上面で更に連携を深めた。中学校教員による交流授業は臨時休校ため中止となった。	日常的に連絡を取り合い情報交換を行いたい。兄弟関係で保護者の情報が必要な場合もある。交流授業を2学期に行い、中学校との関わりを早い段階でもちたい。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○学校事務共同実施	・学校業務を改善し、教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう工夫する。	・学校文書処理の標準化・効率化を行う。 ・学校徴収金事務について、校内調整を図りながら滞納者への対応や、業者への支払い等が円滑に行われるよう工夫する。	B	服務帳簿の点検、及び、学校徴収金の一部について、事務職員を中心として業務を進めることで、集中管理による効率化、担任の負担軽減等を行うことができた。	今後も服務帳簿点検や学校徴収金の業務を進め、担任の負担軽減や集中管理による効率化をめざし、担任が児童と向き合える時間を増やすよう努める。
		○業務改善プロジェクトの実施	・全職員参加による勤務体制の検討を行い、業務の明確化を図る。 ・具体的な改善策を実行し、業務の効率化を図る。	・業務改善案を計画し、職員に提案する。 ・職員研修で日常業務の在り方や、業務改善の取組について話し合う。 ・仕事の可視化と業務の省力化に取り組む。	B	業務改善についての意見を教職員から広く募集し、それについての意見交換会を行った。ムリ・ムダ・ムラを洗い出し、来年度への提言としてまとめることができた。	提言内容に実効性を伴わせるために、今後も内容について議論し取り組んでみる。教職員が心身共に良い状態で児童の前に立てるよう、建設的な検討を進めていく。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

今年度は「活用力向上」県研究指定の最終年度であり、大坪小学校としては長年行ってきた算数科研究の一応の総決算となった。これまで行ってきた「思考力・判断力・表現力」を伸ばす取組が更に一步深まったと感じる。また、市の漢字検定では94％の合格率を出し、昨年度に引き続き、規模の大きい学校としては最良な結果を収めるなど、学力向上の取組が形となって現れ始めている。今後も児童の興味関心を高めながら、「わかる喜び」と「自分の成長」を感じ取れるような授業の創造に尽力する。また、特別な支援が必要な児童については、教育相談担当や特別支援コーディネーターが中心となり、外部機関とも連携して、情報共有と組織的な対応を行うことができた。引き続き、多角的に児童を捉え、様々な選択肢から支援を行えるよう連携をとっていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目